

いこま会議宣言

今回、私たちは「住宅都市からの挑戦～近未来のライフスタイル～」をテーマに、生駒山に象徴される緑豊かな生駒山地をはじめ、緩やかな矢田・西の京丘陵などの心和む自然環境に囲まれ、美しい水と緑の織り成す恵み豊かなここ生駒市で、第23回環境自治体会議に集いました。

過去22回の環境自治体会議で積み重ねられた知識や経験に加えて、生駒会議3日間の交流を通して、取り組むべき問題の現状と解決方法やこれからの行動指針を学ぶことができました。住宅都市として直面する課題は、全国すべての自治体も抱える共通の課題といえます。これらの課題を解決するためには、住民や事業者など地域に関わるすべての人々がお互い知恵を出し合い、協力し合うことが最善の方法であることを再認識しました。

生駒市は、住宅都市の財産ともいうべき「市民力」を中心に市民団体、市内の事業者との協働による取組により課題の解決を図ってきました。ここに集う私たちは、これまで行ってきた市民や市民団体、市内の事業者との協働による取組を継続し、更に発展させていくことで、それを通じた市民の利便性の向上、産業活性化、防災力の強化などを図り、都市が抱える課題に対応していくため、“待ち”から“攻め”の姿勢で以下のことを進めていくことをここに宣言します。

1. 次世代の技術とそれを使いこなす市民がつながって、住宅地や集落などの小さな地域やまち全体で環境イノベーションを起こしていきます。
2. 子どもと大人、お年寄りと若者など、多世代で楽しく住めるよう、まちのかたちを維持したり、作り替えます。
3. 宅地と農地、森林、水辺のつながりを認識し、資源を循環させ、ごみ減量など環境負荷を低減するとともに、生物多様性の確保を図ります。
4. 消費者と企業がつながって、省エネや創エネを協働で進めるとともに、環境にやさしい商品の需要を喚起し、産業のグリーン化を進めます。
5. 地域をつなげる多様な交通手段により、利便性が高く環境にもやさしいまちをつくります。
6. 住民と事業者と行政がつながって、住宅地や集落の宝を見つけ、それを活かしたまちづくりや環境保全活動を主体的に行う人づくりを進めます。

平成27年5月23日 いこま会議参加者一同